

瀬戸内海における養殖ノリ不作の原因究明と被害防止技術の開発

1 中核機関・研究総括者

(独) 水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所 渡辺 康憲

2 研究期間

2004～2007年度(4年間)

3 研究目的

瀬戸内海東部海域では、珪藻赤潮によるノリ色落ち被害の防止が課題となっている。このため、ノリ色落ち原因を解明し、被害防止技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 広域モニタリングによる栄養塩、珪藻類およびノリ色落ちの動態の把握(兵庫県立農林水産技術総合センター、岡山県水産試験場、広島県水産試験場、香川県水産試験場・香川県赤潮研究所)
播磨灘、備讃瀬戸、燧灘北部で連携のとれた広域モニタリング調査を行い、ノリ色落ちにいたる動態を把握する。
- ② 主要珪藻類の生理・生態学的特性の解明((独)瀬戸内海区水産研究所、京都大学、兵庫県立農林水産技術総合センター)
培養実験、調査船調査で主要有害珪藻類の生理・生態学的特性、増殖活性、鉄などの微量物質の増殖への影響、および休眠期細胞の分布などを明らかにする。
- ③ 栄養塩、珪藻類およびノリ色落ちの機構解明と予測・対策手法の開発((独)瀬戸内海区水産研究所、(独)養殖研究所、京都大学、香川大学、香川県水産試験場)
瀬戸内海全域、ノリ漁場およびノリ網の範囲を対象スケールとして栄養塩、珪藻の動態を経時的に予測できるモデルを開発する。

5 目標とする成果

各種モデル及びモニタリング体制が確立される。これにより、ノリ養殖に被害をもたらす珪藻赤潮の発生を早期に予測し、適切な漁場行使・漁業経営を行うことが可能となり、被害軽減に寄与することが期待される。